［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　平成21年 4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0371000134
法人名	医療法人　勝久会
事業所名	グループホーム　つばき・りんご
所在地	岩手県陸前高田市高田町字中田69-2 （電　話）0192-55-7370・7360

評価機関名	（財）岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	4月27日

【情報提供票より】（ 21 年 3 月 1 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　12　年　4　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	23　人	常勤　15 人，非常勤　8 人，常勤換算　16.4　人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋平屋　造り
	1 階建ての　1 階　～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	15,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（ 3 月 1 日現在）

利用者人数		18 名	男性　2 名	女性	16 名
要介護1		5　名	要介護2	5	名
要介護3		5　名	要介護4	1	名
要介護5		2　名	要支援2	－	名
年齢	平均	86.4 歳	最低　76 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	松原クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

陸前高田市内の小高い丘陵地帯に位置し、母体である医療法人勝久会の運営する松原クリニック、老健施設松原苑、居宅介護支援事業所等々、多種の施設と共に立地している。「つばき」と「りんご」はもともと同系列の隣接した単体のグループホームであったが平成20年8月に合併、2ユニットのグループホームとして再出発し、一体的に運営している。しかし、共通点は多いものの、それぞれが培ってきた独自色は継続し、それぞれの特色を出しながら、利用者の豊かな生活のため創意工夫をしている。また、同一敷地内の各種施設・事業所とも密接に連携が取られ、有機的に運営されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	自己評価については意義を理解し、職員皆で考え、評価を行っている。また、前回の評価からの課題と考えている事項について取り組み、「地域とのつきあい」「家族等の意見の反映」等について成果を上げてきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価の方法について、前回は全項目を皆で話し合い検証していった様な形で行われたが、今回は、項目を分けて振り返りをし、全体の自己評価とした。様々な方法での振り返りをすることで、角度を変えた「自己評価」をすることが出来、細かな気付きを得られている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議のメンバーは近隣自治会長2名のほか、利用者のご家族、市の担当者、認知症の人と家族の会岩手県会長の方等で構成されている。会議の進行を事業所側がするのではなく、（外部の）有識者の方に依頼し、活発な意見交換の場となってきている。現在は防災関係の内容について話題となることが多い。地域との協力関係が構築されつつある事を感じる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	ご家族からの意見の収集については事業所内に投書箱を置いたり、面会時にも声掛けするなど話し易い環境づくりに努めているほか、法人内の接遇委員会活動として「接遇アンケート」を実施するなどの取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	隣接している「松原クリニック」に受診に来た利用者の知り合いが気軽に立ち寄ることがあったり、近隣から野菜を頂いたり、近くの商店街のお茶会に参加したり等地域との関わりを図っているが、職員は更に地域との交流を必要と感じ、日々取り組んでいる。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	大きな基本理念（「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」）のもとに、各ユニットで独自の個別理念を掲げている。つばきユニットでは「地域との共生」を謳い、りんごユニットでは個人のスタイルを大切に等個々のケアに関わることが記されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットとも職員で理念を考え、週ごとのカンファレンスや月ごとのミーティング時などに、自分達の日頃のケアや様々な関わりを振り返り、利用者と向き合っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接している「松原クリニック」に受診に来た利用者の知り合いが気軽に立ち寄ることがあったり、近隣より野菜を頂いたり、近くの商店街のお茶会に参加したり等地域との関わりを図っているが、職員は更に地域との交流を必要と感じ、日々取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については意義を理解し、職員皆で考え、評価を行っている。また、前回の評価からの課題と考えている事項について取り組み、「地域とのつきあい」「家族等の意見の反映」等について成果を上げてきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは近隣自治会長2名のほか、利用者のご家族、市の担当者、認知症の人と家族の会岩手県会長の方等で構成されている。会議の進行を事業所側がするのではなく、（外部の）有識者の方に依頼し活発な意見交換の場となってきている。現在は防災関係の内容について話題となることが多い。地域との協力関係が構築されつつある事を感じる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ユニットにより行政との関わりについての捉え方が違うが、両ユニットとも、現在は手続き関係での関わりが主となっていると考えており、今後更なる連携が必要と考えている。	○	生活保護や権利擁護についての手続き等での繋がりはあると感じているが、連携という意味ではまだまだ課題があると考えている。地域包括支援センターも交えて行政との連携が更に深まることを期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書等を送付する際に、連絡表（利用者個々の暮らしぶりなど）を一緒に送り、ご家族からは詳しく個人個人の様子が分かることで好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見の収集については、事業所内に投書箱を置いたり、面会時にも声掛けするなど話し易い環境づくりに努めているほか、法人内の接遇委員会活動として「接遇アンケート」を実施するなどの取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の定期異動等に関しては避けられないこともあるが、グループホーム着任期間が長くなるなど、法人としてもダメージへ配慮した形で異動を行っている。新しい職員は着任前に数日、ボランティアで来てもらい馴染みの関係が作れるよう配慮した取り組みを行っている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員と中堅職員との職員育成のためのミーティングが行われている。法人内には様々な委員会があり、グループホームからも職員がそれぞれ委員となり活動に参加している。外部研修へも職員は、概ね参加の機会が与えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域にあるグループホームや小規模多機能事業所と月一回のペースで情報交換会議を開催している。今後は、交換研修等に小規模事業所も含めて行っていくか検討中である。ネットワーク作りが積極的に行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の始まりは居宅サービスのケアマネージャーからの紹介が多い。利用希望者のサービス利用状況等についてケアマネージャーからはもとより担当ヘルパーから話を聞くなどして情報収集している。またサービス開始に当たっては事業所の見学をご家族と共にして頂いたり、職員が訪問もして顔馴染みとなって開始している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者の話を落着いて聞くことで、利用者が安心感を感じていることを職員自身も感じている。また、職員自身も自分の元気の無い時には慰められ、嬉しい時には一緒に笑うなど、利用者とのやり取りが一方的なものになっていないことがよく分かった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向について出来る限り受け止め実現しようと努めている。利用者の行動（活動）面で、全てを実現させることが難しいことがあるが、職員は創意工夫で思いや意向を汲み取っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアプランについては、ご本人・ご家族・かかりつけ医・職員の意見が盛り込まれるようになっている。利用して長い方が多くなってきて、「生活の質」や「生活のメリハリ」的な内容のケアプランの他に最近では、「身体的プラン」が盛り込まれてきているように感じている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは月に1回のペースで行い、ケアプランの見直しや更新は3ヶ月に1回の頻度で行っている。そのほか、状態の変化が見られた時などは話し合い、必要に応じた対応を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、医療連携体制、ショートステイ体制の確保、通院支援などの取り組みを行っている。	○	事業所としての更なる多機能性を模索中のようであるが、具体的には、事業所の立地（高台に所在）を活かし、地域の避難場所としての提供を考えている。また、空き部屋を利用したショートステイの体制があるが、広く認知してもらえるような取り組みを行うことを考えている。積極的な事業所の取り組みに期待していきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のかかりつけ医での受診となっているが、殆どの利用者が隣接する松原クリニックでの受診となっている。家族により通院のほか、職員による受診支援も行っている。歯科についても法人本体の協力歯科医院にご協力頂いている。嚥下等については松原苑の言語聴覚士の協力も得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期支援の取り組みは指針を出すと共に、利用者家族等にも説明・同意を頂いている。具体的な個々、日々の対応については家族の面会時に希望を汲み取るようにしている。しかし終末期に対しての職員自身の意識がまだ低いように感じている。	○	緊急時をイメージ（想定）してのロールプレイング実施や、法人単位の委員会を通じての勉強会、ユニット単位での話し合い、意識共有など、管理者は、これらの多くを今後の課題と捉えており、前向きな取り組みを考えている。段階を経て実現していくことに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関わる書類等の管理は適切に行われている。法人による接遇委員会発信の「接遇マニュアル」を基本に、利用者に配慮あるやり取りが行われている。また事業所独自でも「接遇」に関する検討がなされ、まとめられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるものの、起床に関しても個々のペースで活動を開始してもらったり、日常生活においても利用者の言葉に合わせて色々なことをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、ユニットごとに違っており、利用者のその日に食べたいもの等への対応も柔軟にしている。新聞折込チラシを見て買い物に行ったりしてメニューの変更もしたりする。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については入浴可能日等を特に設定せずに、自由に入ることが出来るようにしている。入浴可否は（入浴前の）バイタルチェックで対応し、入浴に関わる事項を事業所としてマニュアル化し使用している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの慣習等として、水木だんご作り、干し柿作りなどを行ったりしている。皆で作った干し柿で、「柿なます」を作り美味しく頂いた。又、つばきユニットとりんごユニットの間に畑が作られており畑仕事も行ったりしている。裁縫をされる方は事業所用の雑巾を作ってくれたり、利用者同士での「ほころび直し」等にも協力的であり、色々な才能を活かして頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内だけに止まらず、お天気や気温等を見計らい、外出の支援をしている。車酔いしがちでドライブ等が苦手な方もいらっしゃるので、そういった方へは別の形で外出支援も行う。日常的に、買い物へ利用者も同行したりしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠については防犯上夜間についてのみ行っている。外出傾向時について時間帯によっては、声掛けして家事を一緒に行うことや、どこに行きたいかのお話を聞くことなどにより、状況の判断をし、外出をして頂いている。臨機応変な支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回の定期的な実施を行っており、災害時に備えるための取り組みは取られている。法人の自主防災組織もあり、法人としての協力体制を築いている。	○	日ごろより定期的な避難訓練が行われており、夜間想定や延焼想定の色々なスタイルで災害時に備えている。法人としての防災に関わる組織編成のほかに、地域も巻き込んでの協力体制も今後更に構築していくことを希望するとともに、避難訓練時の所要時間を計測する等して安全確保への取り組みを更に充実させていって欲しい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては1日約1,000ccを目安に支援している。水分摂取に関して液体での摂取を好まない方には、ゼラチン等で固めたものを食していただくように対応している等、創意工夫が窺えた。栄養バランス等については法人の管理栄養士にメニューを確認してもらうなどの対応がなされている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれで造りが違い、採光についても違った趣があり、それぞれに暖かみのある雰囲気が感じられた。長い通路の途中にはソファーが置かれていて休むことが出来たり、お天気の日はサンルームでの“ひなたぼっこ”も出来るような環境もあった。テレビのある食堂兼居間では、皆が集まり、ゆったりした時間があった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の馴染みのものが置かれた居室となっている。お位牌、小さなテーブル、小鏡台、タンスなど思い思いの自室を作り出していた。利用者も声がけにより快く自室を視察させてくださり、思いのあるものの説明もしてくれた時の表情は、にこやかで穏やかであった。		